

青い鳥のご紹介

社会福祉法人こころの窓は「青い鳥」からスタートしました

青い鳥は、就労継続支援事業B型と生活介護事業を展開している多機能型障害福祉サービス事業所です。平成15年10月1日に当法人初の事業所として開所しました。開所当時は40名からスタートしましたが、現在では100名以上の利用者様が通所されています。



就労継続支援事業B型では、お菓子などの自主製品作りや配膳作業、下請け作業に取り組み中。作業スキルやコミュニケーション能力の向上を目指しています。仕事を通して働く喜びを得て張り合いのある毎日を過ごしています。

より輝いてともに生きる

生活介護事業では、社会の一員として豊かに生きがいのある生活を送りながら、日常生活動作の習得、作業スキルの向上などを目標として活動しています。

青い鳥における年間行事には、入所式・一泊旅行・一日外出(白帰りに旅行)・青い鳥まつり・クリスマス会・餅つき大会・新年会などがあります。

青い鳥まつりでは地域の皆さんにもご来場いただき地域交流を図っています。

また、毎月の行事としてクラブ活動日や希望する活動(アクティブ・サロニール・民謡・手話・工芸・ミュージックケア)に参加し、楽しんでいます。

毎月の誕生日会では、誕生日にあたる利用者の皆さんで外食に出かけています。

お互いの出会いに感謝し、ともに活動できる喜びを分かち、毎日をより輝けるものとしていきたいと考えています。



●機関紙名の由来について

ココロ・ノマド

機関紙の名称「ココロ・ノマド」は、ココロとノマドに由来しています。ココロはその字のとおり「心」です。ノマド(nomad)は「遊牧民」という英語です。ココロ・ノマドというネーミングとロゴマークには、「わたしたち皆が、お互いに物理的、制度的、心理的な様々なバリア(障壁)から解放された、心の豊かな自由の民でありたい」という願いが込められています。



アーティスト・ノマド① (利用者作品紹介)



柴田規子さん特集 あたたかさを感じられる優しい世界観が素晴らしいです。

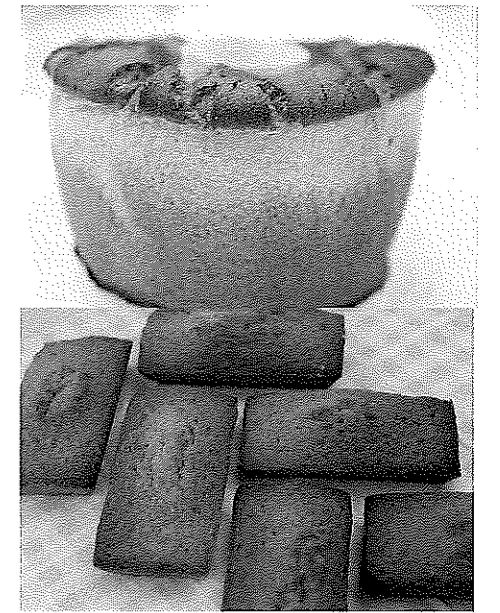
パティスリー・ロワゾー・ブルー KoKoRo no MaDo

「パティスリー・ロワゾー・ブルー」とは、青い鳥における製菓事業のオリジナルブランドの名称です。ちなみに「ロワゾー・ブルー」とはフランス語で『(幸せの)青い鳥』という意味です。平成27年までは「はぁ〜工房」という名称でお菓子を販売していましたが、今年からより美味しく、よりオシャレなお菓子を作り、お客様に幸せな気持ちを与えたいという思いから名称を変更しました。

職員には某有名洋菓子店で勤務経験のあるパティシエがいて、利用者様への生地作りの指導や新商品の開発、技術指導などを行っています。パティシエの利用者様への作業の説明は『明るく、優しく、わかりやすく』をモットーとしていて、利用者様からの人気も絶大です。そんなパティシエの考案したお菓子は絶品で法人関係者だけでなく、地域の方々にも熱烈なファンができています。

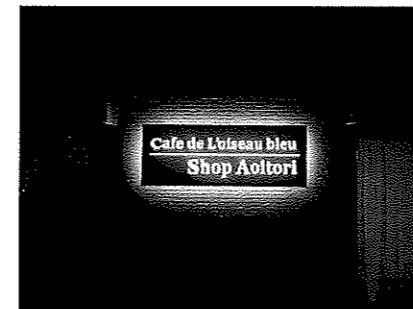
それでは「パティスリー・ロワゾー・ブルー」の商品を紹介します。色々な味が楽しめる定番の『クッキー』や『パウンドケーキ』、バター風味が香ばしい『フィナンシェ』、アーモンドたっぷりの『チュール』、レモン風味で本格的な『マドレーヌ』など焼き菓子は種類豊富です。洋生菓子もたくさんあり、なかでも1番人気の『シフォンケーキ』は驚くほどフワフワとした生地で、気が付けばあっという間に全部食べてしまうほどです。他にもバニラ風味で人気の『焼きプリン』、ホワイトチョコが入った『チーズケーキ』、生チョコのような口触りの『ガトーショコラ』も人気のある主力商品です。利用者様がひとつひとつ手作りで丁寧に作っているからこそ、「ロワゾー・ブルー」のお菓子は美味しいだけでなく温かみのある味が出せるのです。

これからも幸せな気持ちで運ぶお菓子をたくさん作っていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。



ショップ青い鳥

KoKoRo no MaDo
Social Welfare Organization



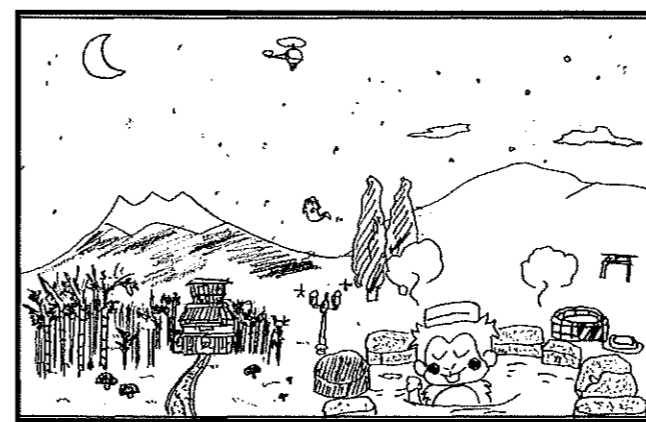
「カフェ・ロワゾー・ブルー/ショップ青い鳥」は法人のアンテナショップとして4年前にオープンしました。ショップ内には、地域の方々にも、障がいに対する理解、認識を深めてもらうための書籍や情報誌を備えています。

コーヒーなどの飲料が充実しており、紅茶、ジュース(オレンジ、グレープ、リンゴ)などがあります。さらに青い鳥の「はぁ〜工房」で作ったクッキーやパウンドケーキなどの焼き菓子とシフォンケーキやチーズケーキ、ガトーショコラなどの洋生菓子の販売をしています。ショップ内には、イートインスペースも設けているので、お菓子を購入し、すぐに食べることも可能です。

他にも、研究に研究を重ねて開発したカレーライスや種類豊富なサンドイッチもご用意しています。カレーライスは野菜をふんだんに入れたヘルシーなカレーで、地域の方も目当てに食べにくる人気商品です。サンドイッチも定番の三角サンドからクルミパンやドッグパン、クロワッサンで具材を挟むなど、食べる人を飽きさせないラインナップとなっています。ちなみにショップでは笑顔いっぱい看板娘(?)2人がお出迎えします。癒されること間違いなしです。

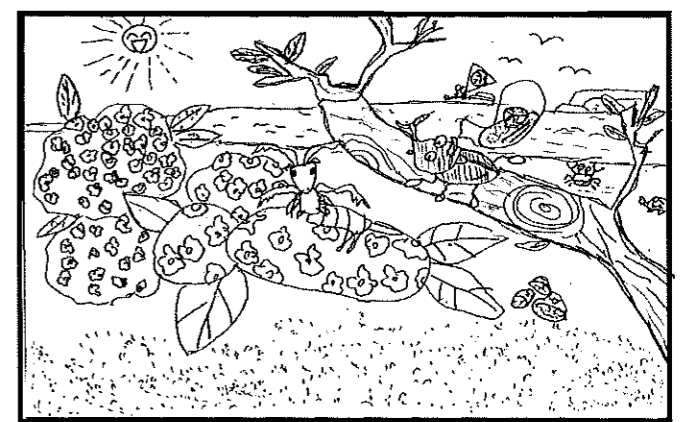
「カフェ・ロワゾー・ブルー/ショップ青い鳥」に是非一度お越しください。

アーティスト・ノマド② (利用者作品紹介)



柴田規子さん 夜の静けさと、温泉につかるおさるさんのほっこり具合がいいです。

アーティスト・ノマド③ (利用者作品紹介)



柴田規子さん 夏の浜辺にアジサイと虫たち。うまくまとめであり、楽しそうです。

相談支援事業所 青い鳥 KoKoRo no MaDo

相談支援事業所青い鳥は、障がいのある方やその家族が地域で自分らしい生活を送るために、日常生活や社会生活などの相談を受け、福祉サービスの利用援助(サービス等利用計画の作成)、情報提供や専門機関の紹介などを行っています。

利用者の尊厳を守り、生きにくさや暮らしにくさの緩和・解消に向けて、一方的な援助関係ではなく協働パートナーを目指しています。いつでもお気軽にご相談ください。

ショートステイあかね KoKoRo no MaDo

ショートステイあかねは平成26年5月に開所しました。

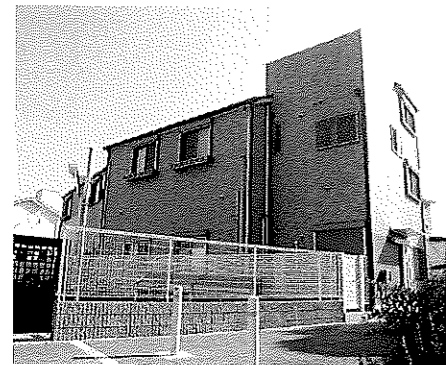
障がいを持たれた方と同居のご家族が病気その他の理由により、福祉サービスが必要とされる場合にご利用できる短期入所事業です。一時宿泊に伴う入浴、排せつ及び食事といった生活支援を受ける事ができます。また、ご家族にとっての休養、息抜き(レスパイトサービス)としての役割も担います。

宿泊定員は12名で、各居室は個室にベッド、空調、TVを完備しています。一人一人のご利用者様のニーズにお応えするべく、見学や相談など随時実施しています。ご希望のご利用者様、ご家族様のお問い合わせをお待ちしております。



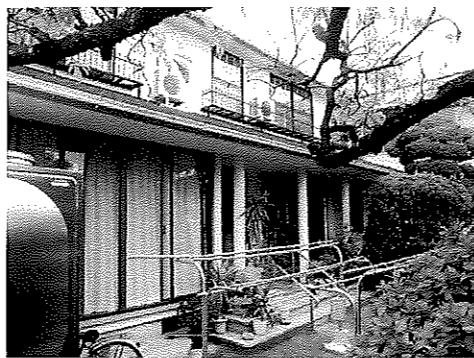
ヴィラージュあまね KoKoRo no MaDo

グループホーム事業では、「青い鳥ホーム1」、「青い鳥ホーム2」、「ホームおみおの65」の3つのホームを「ヴィラージュあまね」という事業所名で運営しています。これらのホームには、常時介助の必要性の高い方々を中心に17人の方が生活されています。17名すべての方が通所施設「青い鳥」を利用されていますが、一部曜日により、別法人のサービスを利用される方もいます。夕方はホームに戻られて散歩に出たり、日常必要な買い物に出たりして過ごされます。また、入浴時や通院時の問診や検査時には支援員が介助を行います。誕生日月には、ホーム利用者の皆様で「誕生日」をお祝いするなど、ホームでイベントを開催することもあります。「ヴィラージュ=“村”」のように、村人同士がゆったり仲良く暮らす、そのような空間でありたいと思います。



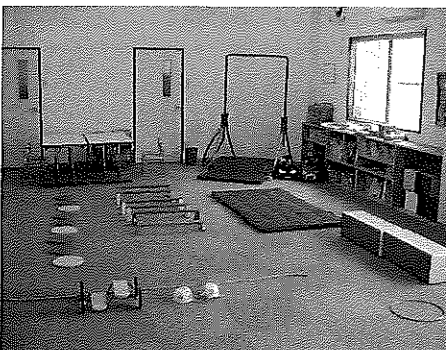
ヴィラージュあゆみ KoKoRo no MaDo

「ヴィラージュあゆみ」は現在、「あゆみホーム」「桃山台ホーム」「大美野ホーム」「高松ホーム」の4つのホームから成り、21名の利用者様が暮らしています。一定程度、自立されている人が多く、多趣味な人・外出が好きで人が多いので好きな活動が継続して行えるよう、情報提供や、ガイドヘルパーとのやり取りを行なっています。また、一人でいるような事が出来るように、声掛けや援助も行なっています。誕生日月には、各ホームで誕生日会を開催し、みんなでお祝いしています。他にも、ホーム合同でイベントを開催する事もあります。家で過ごしている時と同じように、安心して暮らせる場所を目指しています。



青い鳥初芝教室 KoKoRo no MaDo

青い鳥初芝教室は、3歳～高校3年生までの児童が通っています。毎回、保護者の方も一緒に来ていただき、別室で様子を見てもらっています。就学前クラスと小学生のクラスと中学生のクラスに分け、将来、集団生活が楽しく送れることを目標に月2～3回、療育を実施しています。グループ療育は1クラス6名編成で1時間～1時間半行います。また、グループ療育の前で1時間、国語と算数を基本とした個別学習を行っています。就学前クラスでは体を動かしたり、リズム遊びをしたり、手遊びや紙芝居、工作、散歩、指示遊びなどを行っています。小学生ではサーキット運動や長縄、楽器の協奏などを行っています。中・高校生では筋力トレーニングをしたり、友達と話し合いをしたり、夏休み等を利用して、子どもの意見を元にカラオケやポーリング場等の遊技場に行ったり、調理実習をしています。



社会福祉法人こころの窓 機関紙 創刊のごあいさつ



社会福祉法人 こころの窓 理事長 浦郷 津留子

創刊にあたって

この度、「こころの窓」の機関紙を発行させていただきます。ただ今ことになりまして、スタッフ達は満を持しての出発との意気込みでございます。紙面を通じて利用者様の生き生きとした活躍の現状など、様々な角度からお伝えして参ります。また、読者の方々の声も紹介させていただきます。誠に交流の場となれば幸いです。

創設時の苦難を乗り越えて...

今から12年前(2003年10月)社会福祉法人「こころの窓」は誕生しました。「発達に遅れをもつ人たちが安心して生涯を託せる施設を作ろう」とをスローガンに志を同じくする人たちが集まり、「お金がない。土地がない。障がい福祉への理解がない。」などの苦しみの中からようやく施設「青い鳥」を設立することができました。



直面する課題①

おかげさまで事業は順調に発展し、日中通所利用者定員100名、放課後等デイサービス定員10名/日、ショートステイ2名/日、ショップ(製菓店)舗、相談支援事業、グループホームは現在利用者38名、そして28年4月には新たに10名のグループホームが完成します。計48名となる予定です。これも皆々様の支援、ご協力のたまものと深く感謝申し上げます。

直面する課題②

利用者様が地域で生活するにはグループホームが必要、ショートステイも必要とニーズに合わせて事業を拡げ、借入金増大、そして職員増による人件費負担増となり財源不足を招いています。

直面する課題③

今、社会福祉法人制度改革が大きく叫ばれ、法人の在り様が厳しく問われています。「地域における公益的な活動の推進」「法人運営の透明性の確保」等など、福祉の担い手として実践する責務が山積しています。

地域で生きるこころ

多様化する利用者様の生活上の困難のすべてについて今の福祉制度が対応できていない状況です。中でも「この界の地に生まれ育ち、そしてこの町で安心して、生き生きと暮らしたい。」を具現化するには準備や整備運動をこころの窓だけでなく他法人とも手をとり合つて力を結集し、「オール堺」で取り組まなければなりません。こころの窓もその一翼の担い手であり、今後共、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

社会福祉法人こころの窓 事業概要

KoKoRo no MaDo Social Welfare Organization

- 就労継続支援事業B型 定員30名
- 生活介護事業 定員70名
- グループホーム(共同生活援助事業) 10ヶ所 48名(2016年4月予定)
- ショートステイ(短期入所事業) 定員12名
- 相談支援事業
- 児童発達支援事業・放課後デイサービス 定員10名
- ショップ青い鳥